SHURE®

PSM®1000

Personal Monitor Wireless System — English

PSM®1000 ワイヤレスパーソナルモニターシステム — 日本語

PSM®1000 个人无线监听系统 — 简体中文

PSM®1000 個人無綫監聽系統 — 繁體中文

PSM®1000 무선 개인 모니터 시스템 — 한국어

© 2014 Shure Incorporated
Printed in U.S.A.
27B15476 (Rev. 3)

PSM1000

Shure PSM 1000パーソナルモニターシステムは、かつてない先進レベルでのパーソナルモニタリングを実現します。送信機はフルラックサイズ、デュアルチャンネル、ネットワーク接続対応で、トップレベルのプロフェッショナルツアリングや設備用途に最適です。ダイバーシティボディパック受信機は、本来の状態に近いRF信号とオーディオ品質を提供します。イーサネット接続によりネットワーク化することで送信機の機能のリモートコントロールやWireless Workbenchソフトウェアによる統合的な周波数コーディネーションを実現しています。

機能

高度なセットアップ及び操作方法

- グラフィカル性に優れたスキャンプロットのビジュアル表示
- 送信機設定のリモートコントロール：
  - RFミュートのオン/オフ
  - RF出力調整
  - Aux/ラインレベル
  - オーディオ入力レベル
- チャンネル/デバイス名編集
- WWBで直接ファームウェアをアップデート

ツアリンググレード性能

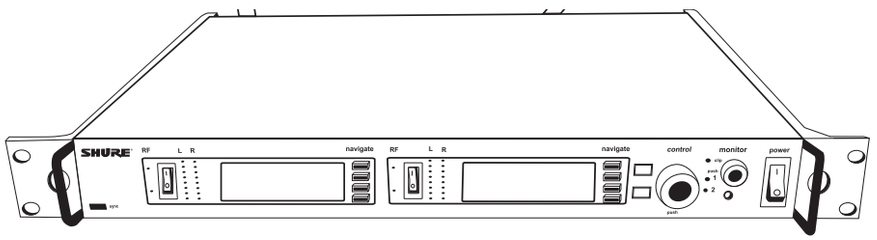
- 頑丈なプロ仕様シャーシを備えたフルラックサイズのデュアルチャンネル送信機
- ツインアンテナ・ダイバーシティボディパックにより干渉によるドロップアウトを実質的に排除
- 高精度フロントエンドRFフィルタリングはRF干渉を減少させ、クリーンで、より強いRF信号、より少ないドロップアウト、耳でわかる不自然さを低減
- CueMode機能により、最大20の異なるモニターミックスを1台のボディーパック受信機に登録し、すばやく簡単な検聴が可能
- 内蔵型電源は、IEC入出力タイプの電源コネクターを備え、ラック内での電源接続も容易
- 下位互換性

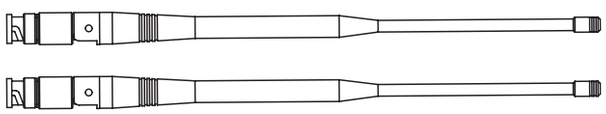
機器構成

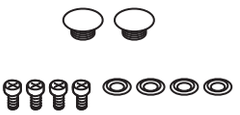
- P10Tラックマウント送信機
- P10Rボディパック受信機（2台）
- 1/2波長アンテナ 2本
- 単3形電池（4本）
- アンテナケーブル (2本)
- IEC電源ケーブルとIEC延長ケーブル
- イーサネット・ネットワークケーブル
- ジッパー付きバッグ

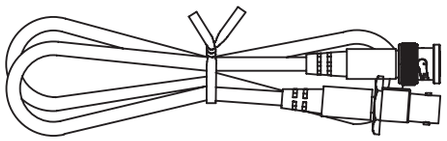
ラックマウント用部品：

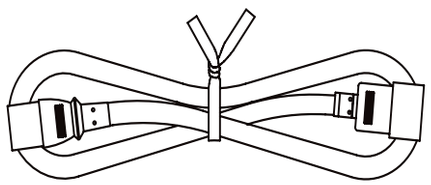
- アンテナホールキャップ（2個）
- ラックマウント用ネジとワッシャー（4本）

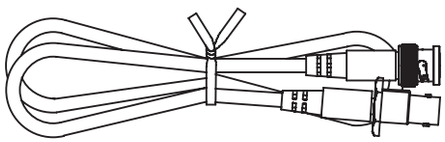


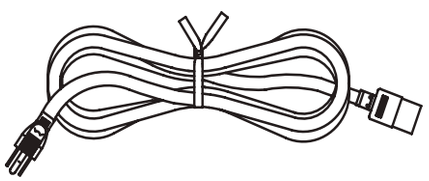


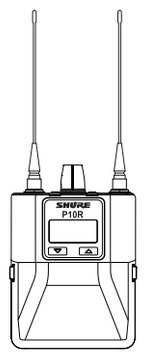


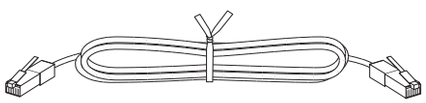












危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

	警告： この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
	注意： この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

注意

- 分解・改造は故障の原因となりますので絶対におやめください。
- 無理な力を与えたり、ケーブルを引っ張ったりしないでください。故障の原因となります。
- 本製品は濡らさないようにしてください。極度の高温・低温や湿気にさらさないでください。

警告

- 水や異物が入ると火災や感電の原因となります。
- 本製品の改造は試みないでください。改造した場合、怪我や製品故障の原因となることがあります。

This device is able to produce sound volume higher than 85 dB SPL. Please check your maximum allowed continuous noise exposure level based on your national employment protection requirements.

安全にお使いいただくために

危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

警告 この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

注意 この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

⚠ 警告

- 整備の際は、資格のある整備担当者に必ずご相談ください。電源コードやプラグの損傷、液体や異物が装置内に入り込んだ場 合、装置が雨や湿気にさらされた場合、正常に作動しない場合、装置を落とした場合など、装置が何らかの状態で損傷した場合は、整備が必要です。
- 装置に水滴やしぶきが付かないようにしてください。装置の上に花瓶などの液体の入った物を置かないでください。
- 本製品の改造は試みないでください。改造した場合には怪我や製品故障の原因となります。

⚠ 注意

- この製品は水の近くで使用しないでください。
- 掃除は、必ず乾いた布で拭いてください。
- 通風口を塞がないようにしてください。使用説明書に従って設置してください。
- ラジエーターや暖房送風口、ストーブ、その他、熱を発生する機器（アンプなど）の近くには設置しないでください。
- 有極プラグやアース付きプラグは安全のために用いられています。無効にしないようにしてください。有極プラグは、2本のブレードのうち一方が幅広になっています。アース付きプラグは、2本のブレードの他に、3本目のアースの棒がついています。幅広のブレードや3本目の棒は、安全のためにあるものです。これらのプラグがコンセントの差し込み口に合わない場合は、電気工事業者に相談し、コンセントを交換してもらってください。
- 電源コードは、特にプラグ差し込み部分、延長コード、機器から出ている部分において、引っかかって抜けたり挟まれたりしないよう に保護してください。
- アタッチメントや付属品は、必ずメーカー指定のものをご利用ください。
- カートやスタンド、三脚、ブラケット、テーブル等は、メーカー指定のものか、この装置用に販売されているものを必ずご利用くださ い。カートを使用する場合は、装置を載せて移動する際、怪我をしないよう注意してください。
- 雷を伴う嵐の際、または長期間使用しない場合は、プラグをコンセントから抜いてください。

●送信機技術基準適合証明ラベルについて

送信機は電波法で規定される技術基準適合証明品です。証明番号を記した証明ラベルが1台ずつ貼ってあります。表示の改変、除去は法律で禁じられていますので、みだりに剥がしたり、損傷することのないよう注意してください。

●違法改造について

機器を分解したり、内部の部品に触れたりしないでください。改造等は法律で禁じられています。

ライセンスについて

許可免許： 本機器操作の際、行政上の認可免許が特定地域で要求される場合があります。考えられる必要条件については国内当局にお問い合わせください。本機器の変更・改造は、Shure Incorporated によって書面で認可されたものを除き、装置の使用の権限を無効にする場合があります。Shureワイヤレスマイクロホン装置のライセンス獲得は使用者の責任であり、ライセンス取得に関しては使用者の分類とアプリケーション、選択周波数によって異なります。適正な許可免許に関する情報を得るために、また標準とは異なる周波数を選択する場合は前もって、必ず適切な通信監督機関にお問い合わせください。

ユーザーの方へのお知らせ

本機器はテストされFCC規定パート15に従いクラスBデジタル機器に適合しますが、制限があります。これらの制限は、住宅地域において設置する際、有害な電波干渉から機器を適度に保護するためのものです。本機器は電磁波を発生・使用し、放射する場合があります。取扱説明書に従って設置しないと無線通信に電波干渉が起こります。また、設置状況に関わらず妨害を引き起こす可能性もあります。本機器によりラジオやテレビの受信に電波干渉が起こるようであれば（これは、機器の電源を一度切ってから入れるとわかります）、次の手段を1つまたは複数用いて電波干渉を防いでください。

- 受信アンテナを別の方向に向けるか、別の場所に移す。
- 機器と受信機の設置間隔を広げる。
- 受信機を接続しているコンセントとは別の回路にあるコンセントに機器を接続する。
- 販売店または熟練したラジオ/テレビ技術者に相談する。

このデバイスは、カナダ産業省ライセンス免除RSS基準に適合しています。本装置の操作は次の2つの条件の対象となります：(1) 装置は干渉を起こしてはならない、(2) 装置は、望まない操作を起こす干渉を含め、あらゆる干渉を受け入れなければならない。

Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radio exempts de licence.L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes :(1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et (2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

本クラスBデジタル機器はCanadian ICES-003に適合しています。Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

注: EMC 適合性試験は同梱および推奨のケーブル使用に基づきます。別種のケーブルを使用した場合はEMC性能が低下します。

本機器の変更・改造を行うと、メーカーによって適合性が書面で認可されたものを除き、装置を使用するユーザーの権限が無効になる場合があります。

⚠ 警告

極度の大音量で音声を聴くと、聴覚を恒久的に損なうことがあります。できるだけ小さな音量で使用して下さい。極度に高い音圧レベルに過度に曝されると耳を傷め、恒久的な騒音性難聴（NIHL）になることがあります。聴覚を損なわないようにするため、各音圧に耐えられる最長限度時間の米国労働安全衛生局（OSHA）ガイドラインを下記に記載しますのでご利用下さい。

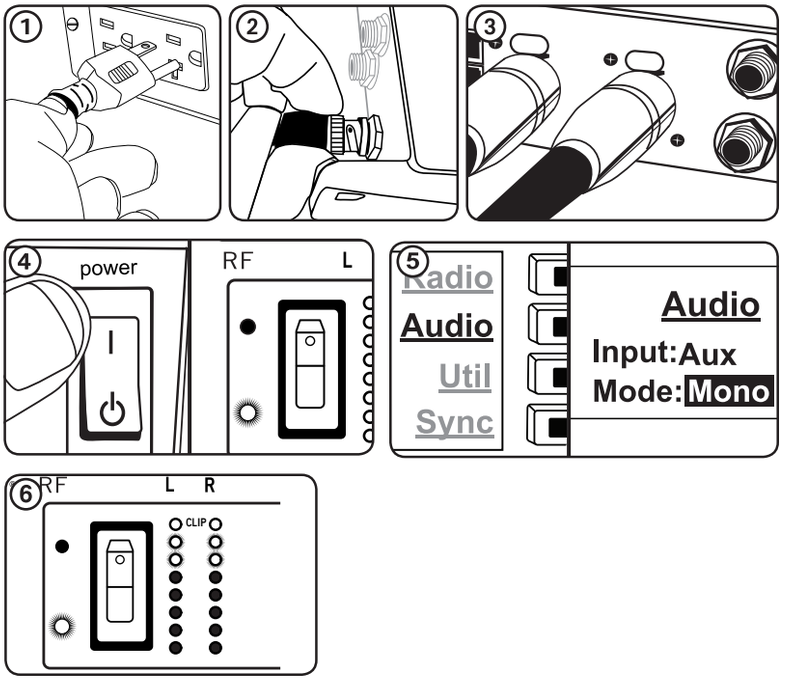
90 dB SPL － 8時間	**95 dB SPL** － 4時間	**100 dB SPL** － 2時間	**105 dB SPL** － 1時間
110 dB SPL － 30分	**115 dB SPL** － 15分	**120 dB SPL** － 回避しないと聴力を害します	

クイックスタート操作ガイド

ラックマウント送信機

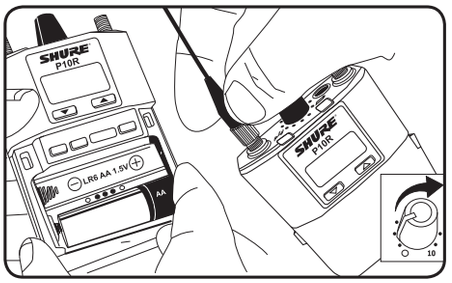
1. 付属の電源ケーブルを使用してコンセントに接続します。
2. 付属のアンテナを**antenna out**BNCコネクターに取り付けます。
3. ミキサー出力などの音源をオーディオ入力に接続します。入力ジャックの両方を使用することができます。モノラル音源の場合は、入力ジャックのいずれか一方だけを使用します。
4. RFスイッチをオフにし、電源を入れます。
5. モノラル（入力1つ）の場合には、**Audio**メニューから**Mono**を選択します。

   Util > **Audio** > **INPUT**設定でソースに合わせた入力感度に設定します。
6. 平均的な入力信号レベルに対して上部の黄色LED2個が点滅し、その下のLEDが常時点灯するように、音源のレベルを調整します。赤のクリップLEDが点灯しLCDに警告が表示される場合、入力がオーバーロードになっています。オーディオ入力レベルを**Audio**メニューで**+4dBu**に下げます。信号レベルが低すぎる場合は入力感度を**-10dBV**に変更します。



ボディパック

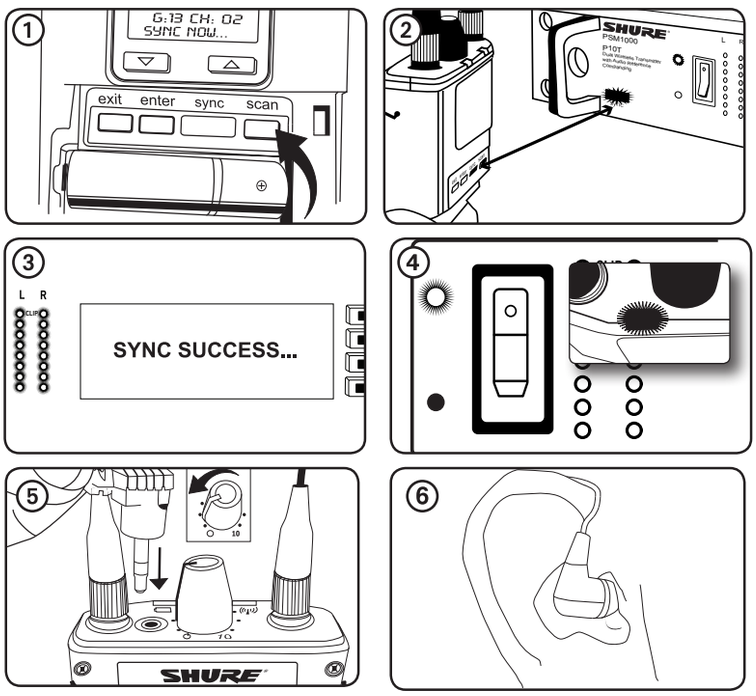
両側のラッチを押しながら引くと開きます。電池または電池パックを挿入し、アンテナを取り付けます。音量ノブを回して電源をオンにします。バッテリーランプが点灯します。



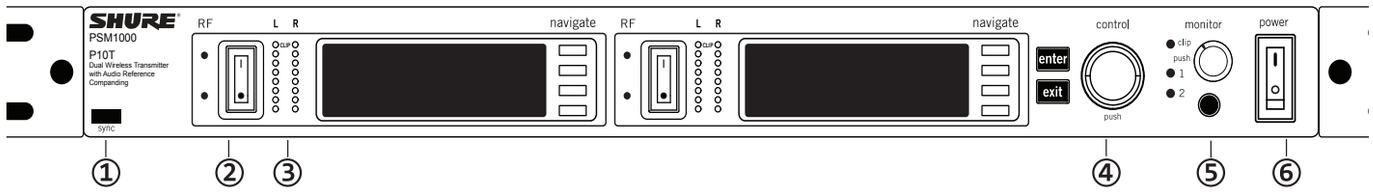
スキャン及び同期

1. ボディパックで、**scan**ボタンを押します。ディスプレイに**SYNC NOW...**と点滅表示されます。
2. ボディパックのIRウィンドウとラックユニットを近づけると、送信機のIRウィンドウが点灯します。送信機の**sync**ボタンを押します。ラックユニットの**Level** LEDが点滅し、画面には**SYNC SUCCESS**と表示されます。
3. RFスイッチをオンにします。ボディパックの青のRF LEDが点灯し、送信機を検出したことを示します。ボディパックにもRF信号強度（RF）が表示されます。
4. **重要：**イヤホンを接続する前にボディパックの音量を下げてください。
5. イヤホンを挿入しゆっくり音量を上げます。

重要：送信機前面の保護フィルムをはがさないと、IR同期が機能しない場合があります。



フロントパネルコントロール



① 同期ウィンドウ
ボディパックのIRウィンドウをこの同期ウィンドウに近づけます。

② RFスイッチ
RF出力をミュートします。複数のシステムのセットアップや設定の調整を行うときに不必要な電波やオーディオ信号を停止できます。

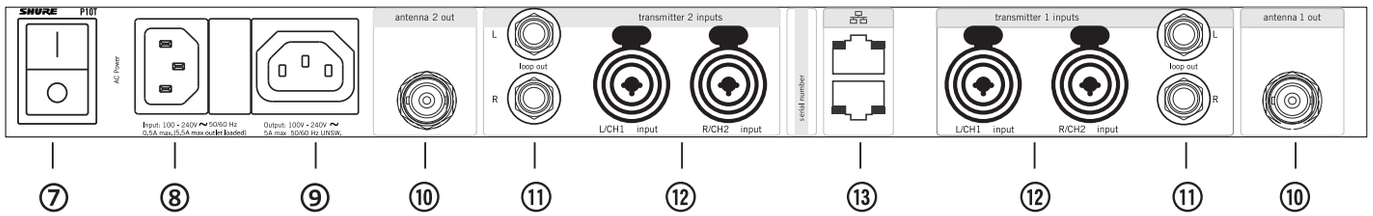
③ オーディオインジケーター
平均的な入力信号レベルに対して上部の黄色LED2個が点滅し、その下のLEDが常時点灯するように、コントロールホイールを使用してオーディオレベルを調整します。**enter**ボタンで値を保存し、**exit**でキャンセルします。赤のクリップLEDが点灯する場合、入力がオーバーロードとなっています。音源でレベルを下げるか、**Audio** > **Input**メニューでラックユニットの入力感度を変更してください。

④ ステータスディスプレイおよびコントロール
ナビゲーションボタンを使って構成メニューにアクセスします。コントロールホイールを押すとカーソルは次の項目に移動します。コントロールホイールを回してパラメーターを変更します – **enter**ボタンが点滅します。enterボタンを押すと、変更した値が保存されます。**exit**ボタンを押すと、変更がキャンセルされ、前のメニューに戻ります。

⑤ ヘッドホンモニタリング
モニターコントロールで3.5 mm ヘッドホンジャックへ出力される信号を調節します。ノブを押して送信機を切り替えます。モニタークリップLEDは、ヘッドホン音声でクリップが生じていることを示します。

⑥ 電源スイッチ
ユニットのオン/オフを切り替えます。

リアパネル



⑦ 主電源スイッチ
このスイッチはユニットへの電源を切断します。**Util**メニューのインターフェース電源ロックによる影響は受けません。ロック可能なのはフロント電源スイッチのみです。

⑧ 電源プラグ
AC電源入力、IECコネクター100-240 Vac。

⑨ AC電源パススルー
IEC 延長ケーブルと一緒に使用し、AC 電源を他の装置に供給します。電源スイッチではオン・オフされません。

⑩ アンテナ（BNC）ポート
付属アンテナを取り付けます。ラックマウントする場合は、Shure製フロントパネル取付キットかリモートマウントキットを使用します。

⑪ loop out
送信機に入力されているオーディオ信号を他の機器に送ることができます。

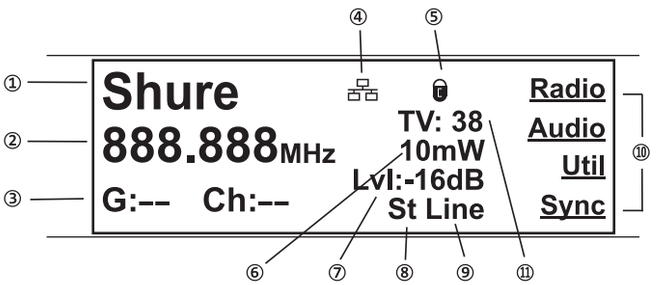
⑫ オーディオ入力
バランス出力またはアンバランス出力に接続します。モノラル信号の入力の場合は、いずれかのジャックを使用します。XLRオスまたは6.35 mm（1/4インチ）TRSプラグが接続できます。

⑬ イーサネットジャック
ネットワークまたはコンピューターへの接続用2ポートRJ-45イーサネットジャック。

送信機メニュー構成およびナビゲーション

ホーム画面

ホーム画面からは、サブメニューにアクセスでき、また送信機設定の概要も表示されます。



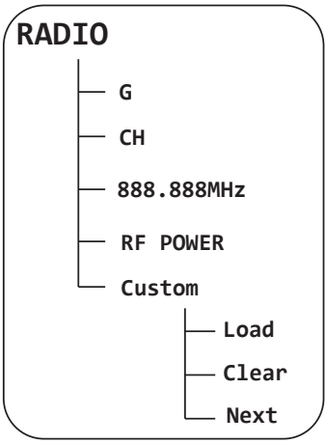
① オーディオチャンネル名
② 周波数設定
③ グループとチャンネル
④ ネットワークアイコン
⑤ ロックアイコン
⑥ RF出力レベル
⑦ オーディオレベル
⑧ ミックスモノまたはステレオ
⑨ Aux/ラインイン
⑩ サブメニュー
⑪ TVチャンネル

Menu Navigation

無線周波数（RF）設定

Radioメニューにアクセスするとユニットが動作する周波数と出力を調節できます。

G: グループ番号。各グループには、ひとつの設置エリア内で同時に運用できるチャンネルが登録されています。
Ch: チャンネル番号。選択したグループ内のチャンネルに送信機を設定します。
888.888MHz: 送信機に設定されている周波数を表示します。周波数選択。1MHzまたは25kHzごとに調節可能。
PWR: 送信機の送信出力レベルです。10、50、100 mWから選択（地域により電源レベルは異なります）
Custom: カスタム周波数グループの作成。カスタムグループを参照してください。



オーディオ設定

Audioメニューからは以下の設定にアクセスできます。

入力レベル（Input)

ラック送信機の背面にある入力のオーディオレベルを変更します。

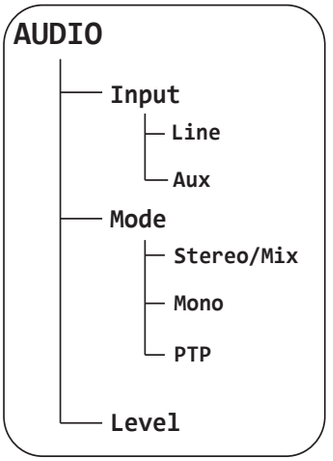
Line: +4 dBu（ラインレベル）
Aux: –10 dBV（auxレベル）

オーディオモード（Mode)

Stereo/MX: それぞれの入力は別のチャンネルとして送信されます。
Mono: 両方の入力はひとつのチャンネルに混合されます。
PTP: ポイント・ツー・ポイントワイヤレスオーディオ用にデバイスを設定します。

出力レベル（Level)

出力レベルを調節します。



受信機同期メニュー（Sync）

同期中にボディパックへ設定を転送する（RxSetup)

この機能を使用して同期中にボディパックに転送される設定を保存します。

各パラメータは**NoChange**がデフォルトとなっており、設定は同期による影響を受けません。

Lock
　ON:ボディパックインターフェースをロックします。
　Off:ボディパックインターフェースのロックを解除します。
VLim
　ON:音量制限をオンにします。
　Off:音量制限をオフにします。
LimVal: 音量制限値を設定します。
HiBoost: 高域ブースト値を設定します。
Mode: ステレオ (**ST**) またはMixMode (**MX**) を設定します。
BalMx: MixModeのバランスを設定します。
BalSt: ステレオモードのバランスを設定します。

スペクトラム・スキャンデータのダウンロードと表示（Spectrum)

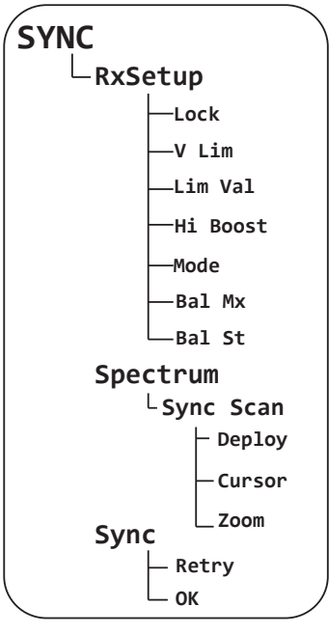
受信機と送信機のIRポートを近づけ、**SyncScan**を押して受信機からスペクトラム・スキャンデータをダウンロードします。

データのダウンロード後、次のオプションが使用できます：

Deploy: ネットワークのすべての送信機に空き周波数の割り当てを行うサブメニューに進みます。
Cursor: コントロールホイールでカーソルを動かすことができます。
Zoom: コントロールホイールでカーソル位置のグラフィックを拡大することができます。
ヒント:コントロールホイールを押すとカーソルとズームモードを切り替えることができます。

Sync

IRポートを使って受信機と送信機を同期させることができます。



ユーティリティ設定

チャンネル名

Util > **Channel Name**

コントロールホイールを回してチャンネル名を変更します。デバイスの各チャンネルに別々の名前を設定することができます（この名前は同期するとボディパックにアップロードされます）。

ディスプレイ設定

Util > **Display**

ディスプレイメニューからLCDパネルの表示を変更できます。

Brightness: ディスプレイの明るさを高、低、中に設定します。

Disp. Invert: ディスプレイの明暗を反転します。

Contrast: コントロールホイールでコントラストを調整します。

インターフェースのロック

これらのコントロールを使用して電源スイッチとフロントパネルコントロールをロックまたはロック解除します。

電源スイッチ

Util > **Lock** > **Power Switch**

Locked: 電源スイッチをロックします。

Off: 電源スイッチのロックを解除します。

フロントパネル

Util > **Lock** > **Front Panel**

Locked: 選択した送信機のフロントパネルのコントロールをロックします。

Off: フロントパネルのロックを解除します。

フロントパネルのロック解除

フロントパネルのロックを解除するには、**Util** > **Unlock**を選択します。

ネットワーク設定

このメニューを使って、このデバイスのネットワーク接続状態についての検索、表示、変更ができます。両方の送信機用として1セットのネットワーク設定となります。

デバイス識別（Device）

表示名を割り当てることができます。これはデバイスの両チャンネルに適用されます。各チャンネルの名前を個別に設定するには、**Channel Name**設定を使用します。

セットアップ（Mode）

Automatic: DHCPネットワークで使用するためのデフォルト設定です。

Manual: 手動IPアドレス設定です。IPアドレス（**IP**）とサブネットマスク（**SUB**）を入力することができます。

MAC: このデバイスのMACアドレスを表示します。これは表示のみで変更できません。両送信機用として1つだけのMACアドレスとなります。

Reset: 手動モードのみ。ネットワーク設定を工場出荷時設定に戻します。

すべてのネットワークデバイスの検索（Find All）

すべてのネットワークデバイスを一覧表示します。

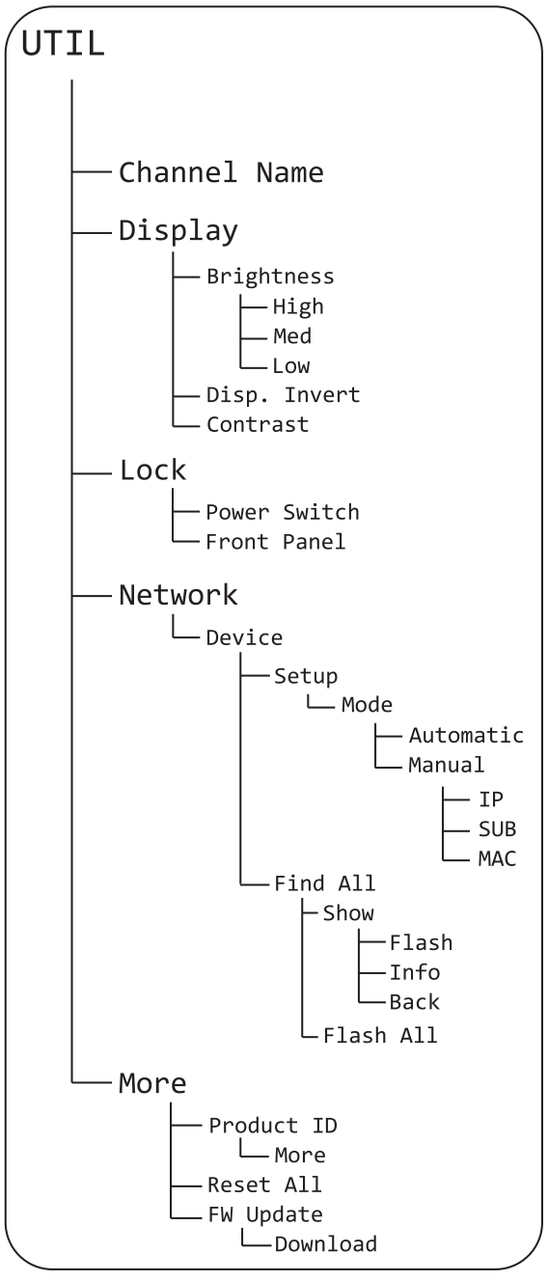
- 一覧デバイスのいずれかにスクロールを合わせ、**Show Info**を押してそのデバイスの情報を表示します。
- **Flash**を押すとネットワーク上のすべてのデバイスのLEDが点滅します
- **Back**を押すと前の画面に戻ります

追加設定（More）

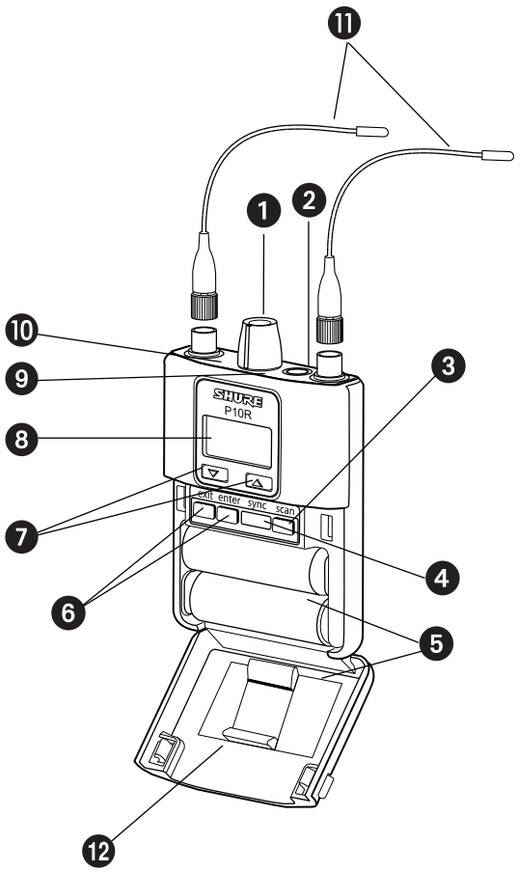
Product ID: 製品の製造番号を表示します。

Reset All: すべてのネットワークデバイスの値を工場出荷時設定に戻します。

FW Update: 送信機に現在保存されている受信機ファームウェアバージョンを表示します。**Download**を押すとIRポートを経由してアップデーターが受信機に転送されます。



ボディパック受信機



① 電源スイッチおよび音量コントロール
ボディパックのオン/オフを切り替え、イヤホンの音量を調節します。

② 3.5 mmイヤホンジャック
ここにイヤホンを挿入します。

③ スキャンボタン
スキャンボタンを押して空いている周波数を探します。2秒間押したままにすると、最も空きの多いチャンネルを持つグループを探します。

④ IRウィンドウ
ボディパックとラックユニット間で設定を転送する際に使用します。

⑤ 電池コンパートメント
単3形電池2本またはShure製充電池が必要です。両側のラッチを押しながら引くと開きます。

⑥ メニューボタン
▼▲ボタンとともに使用して設定メニューにアクセスします。

⑦ ▼▲ボタン
オーディオミックスの調整（MixMode時のみ）、またはメニューボタンとともに使用して設定を変更します。

⑧ LCD画面
現在の設定やメニューを表示します。

⑨ バッテリー残量表示3色LED
緑、オレンジ、赤に点灯して電池残量を表示します。赤になったらすぐに電池を交換してください。

⑩ RF青LED
ボディパックが送信機からの信号を受信しているときに点灯します。

⑪ SMAコネクター
取り外し式アンテナ用です。

⑫ 取り外し式単3アダプター
Shure SB900充電式電池を使用するときに取り外します。

注: アダプターを取り外すにはドアを開けてスライドさせます。アダプターを再度取り付けるには、クリップの上に置いて押します。正しく装着されるとカチッという音が聞こえます。

RF設定

RADIOメニューから次のRF設定にアクセスします。

G: グループ番号。各グループには、ひとつのエリアで同時に動作できるチャンネルが登録されています。

CH: チャンネル番号。選択したグループのチャンネルに受信機を設定します。

888.888 MHz: 送信機が設定された周波数を表示します。ハイライトさせ、▼▲ボタンを使って送信機を特定の周波数に設定します。

SQUELCH: スケルチ設定を調整します。

FULL SCAN: スペクトラム・スキャンを行い、空き周波数をグラフィックインターフェースに表示します。

RF PAD: 3 dBステップでアンテナ信号を減衰できます。

ANTENNA: 単一アンテナ作動の選択。
ダイバーシティ受信を無効にします。

ユーティリティ及び表示設定

UTILITIESメニューから次の設定にアクセスします。

CUEMODE: **CUEMODE**で動作します。CUEMODEを終了するには**enter**を選んだ後**EXIT CUEMODE**を選びます。

DISPLAY: ボディパックのディスプレイ設定を変更します

CONTRAST: ディスプレイの明るさを高、低、中に設定します。

LOCK PANEL: 電源と音量以外のコントロールをすべてロックします。ロックを解除するには、**exit**を押し、**OFF**を選択して**enter**を押します。

BATTERY: 以下を表示します：**Hrs: Min Left**、**temperature**、**Status**、**Cycle Count**、**Health**。

RESTORE: 受信機を工場出荷時設定に戻します。

オーディオ設定

Audioメニューから次のオーディオ設定にアクセスします。

出力モード（MODE）

STEREO: ステレオ

MIXMODE: ミックスモード

高域のEQブースト（HIBOOST）

OFF: ブーストなし（フラット）。

4 dB: 10 kHzで4 dBのブースト。

2 dB: 10 kHzで2 dBのブースト。

音量リミッター (VLIMIT)

VLIMIT: リミッターをオン(**ON**)またはオフ(**OFF**)にします。

VALUE: 3 ~ 9：音量ノブ位置に対応（例えば、5は音量ノブの5番目のドットと同じ）

出力ゲイン（GAIN）

HIGH: ゲインを10dB上げます。

STANDARD(STD): 0 dBゲイン。

電池寿命

電池インジケーター	バッテリー残量表示3色LED	およその残り時間 (h:mm)					
		アルカリ乾電池			リチウムイオン		
		ボリュームレベル			ボリュームレベル		
		4	6	8	4	6	8
	緑色	6:00 ~ 3:50	4:20 ~ 2:45	3:15 ~ 2:05	8:45 ~ 4:00	7:15 ~ 4:00	6:25 ~ 4:00
	緑色	3:50 ~ 2:50	2:45 ~ 2:00	2:05 ~ 1:30	4:00 ~ 3:00	4:00 ~ 3:00	4:00 ~ 3:00
	緑色	2:50 ~ 1:15	2:00 ~ 1:00	1:30 ~ 0:50	3:00 ~ 2:00	3:00 ~ 2:00	3:00 ~ 2:00
	緑色	1:15 ~ 0:25	1:00 ~ 0:20	0:50 ~ 0:20	2:00 ~ 1:00	2:00 ~ 1:00	2:00 ~ 1:00
	オレンジ	0:25 ~ 0:15	0:20 ~ 0:10	0:20 ~ 0:10	1:00 ~ 0:30	1:00 ~ 0:30	1:00 ~ 0:30
	赤色	< 0:15	< 0:10	< 0:10	< 0:30	< 0:30	< 0:30
Total Battery Life		6:00	4:20	3:15	8:45	7:15	6:25

注:Energizer単3形アルカリ乾電池を次の条件で使用したときの電池寿命：

- 受信機オーディオを**HIBOOST** = **OFF**、**VLIMIT** = **OFF**に設定
- 送信機オーディオ**INPUT**設定を **Line+4dBu**、**Level**を–9 dBに設定
- 送信機へのオーディオ入力：ピンクノイズ、+8.7 dBV
- 受信機のオーディオ出力：SE425イヤホン使用時で115 dB SPL

注:低インピーダンスのイヤホン、別の種類の電池、高ゲイン設定にてPSMシステムを使用した場合には、受信機の電池寿命が仕様とは異なる場合があります。

ピンクノイズとは、パワースペクトラル密度が周波数に対して反比例するような周波数スペクトラムを持った信号です。ピンクノイズでは、各オクターブが同じノイズレベルを持つことになります。

複数システムの設定

複数のシステムを設定するときは、ボディパックの内の1台を使って使用可能な周波数をスキャンし、それをすべてのラックユニットにダウンロードします。

ボディパックはすべての送信機と同じ周波数帯のものである必要があります。

1. ラックユニットすべての電源を入れます。**RFスイッチをオフにします**。（周波数スキャンとの干渉を防止します。）

   注:演奏または講演中に使用するその他のすべてのワイヤレス、デジタル機器の電源を**オン**にします（スキャンがそれらによって生じる干渉を検出して回避します）。

2. **scan**ボタンを**2秒間**押したままにし、ボディパックで**グループをスキャン**します。ボディパックにグループと使用可能なチャンネル数が表示され、**SYNC NOW...**が点滅します。

   重要： 使用可能なチャンネル数をメモします。使用可能なチャンネル数よりもラックユニットが多い場合は、可能性のありそうな干渉源を排除して再度試みるか、Shure Applicationsまでお電話にてお問い合わせください。

3. ボディーパックを一番目のラックユニットのIRウィンドウに近付け、**sync**ボタンを押して同期させます。
4. ボディパックの**scan**を再度押し、次に使用可能な周波数を探します。
5. 次のラックユニットとボディパックを同期させます。
6. すべてのラックユニットで同様に行います。
7. 各パフォーマー用のボディパックを対応するラックユニットのIRウィンドウに近付け、**snyc**ボタンを押して同期させます。ボディパックのscanボタンは押さないでください。
8. すべてのラックユニットのRFスイッチをオンにします。これでシステムを使用することができます。

CueMode

CueModeでは複数のラックユニットから名前と周波数設定をアップロードし、1つのボディパックにリストとして保存します。その後、いつでもリストをスクロールして各送信機からのオーディオミックスをショーの最中に演奏者と同じに聞くことができます。

CueModeリストはCueModeの終了、ボディパックの電源オフ、あるいはバッテリーを取り外しても保存されます。

注:CueModeリストを作成する**前に**チャンネル周波数を設定して各送信機の表示名を割り当てておきます。

CueModeリストへの送信機の追加

注:送信機は、ボディパックと同じ周波数帯域にしてください。

1. 電池ドアを開け**enter**ボタンを押します。
2. メインメニューから**UTILITIES**にスクロールし、**enter**ボタンを押します。**CueMode**を選択し、再度**enter**ボタンを押します。
3. IRウィンドウ同士を近づけ、ラックユニットの**sync**ボタンを押します。

   周波数と名前のデータがCueModeリストにアップロードされると、LCDに**SYNC SUCCESS**と表示されます。その送信機のCueMode番号と合計の送信機数も表示されます。

4. 各送信機で上記ステップを繰り返します。

注:CueModeで同期を行ってもボディパックの設定は変更されません。

ミックスの検聴

1. **UTILITIES**メニューからCueModeに入ります。
2. ▼▲ボタンを使用してCueModeリストをスクロールし、ミックスを検聴します。

CueModeの終了

CueModeを終了するには、**enter**ボタンを押して**EXIT CUEMODE**を選択します。

CueModeミックスの管理

CueMode中に**enter**ボタンを押すと、以下のメニューへ進むことができます:

REPLACE MIX: これを選択してからラックユニットのsyncボタンを押すと、現在のミックスの新しいデータをアップロードすることができます（例えば、送信機の周波数を変更した場合）。

DELETE MIX: 選択したミックスを削除します。

DELETE ALL: すべてのミックスを削除します。

EXIT CUEMODE: CueModeを終了し、ボディパックを直前の周波数設定に戻します。

周波数スキャン

周波数スキャンを使ってRF環境を分析し、干渉や使用できる周波数を判別します。スキャンには3つのタイプがあります：

- **チャンネルスキャン** ボディパックのスキャンボタンを押します。最初の空きチャンネルを探します。
- **グループスキャン** スキャンボタンを2秒間押し続けます。使用可能なチャンネル数が最も多いグループを探します。（各グループは同じ環境下で運用される複数システムとして互換性を持つ周波数セットで構成されています。）
- **フルスキャン** ボディパックメニューから**AUDIO** > **FULL SCAN**を選択します。**RUN SCAN**を押してフルスキャンを開始します。**SPECTRUM**を押してグラフィック表示ですべての結果を確認します。

注:周波数スキャンを実施するとき：

- 設定を行っているシステムの送信機のRF**オフ**にします。（周波数スキャンとの干渉を防止するためです。）
- 他のワイヤレスシステムやワイヤレス装置、コンピューター、CD プレーヤー、LEDパネル、エフェクトプロセッサー、デジタルラック装置など、電波干渉の原因となりうるものの電源は**オン**にして、講演やパフォーマンスの最中と同様に作動させます（スキャンが干渉を検出し、生成される干渉を回避します）。

Sync

双方向で周波数設定を転送することができます：ボディパックからラックユニット、またはラックユニットからボディパックに設定を転送できます。

注:ラック送信機の**Sync** > **RxSetup**メニューを使えば、同期中に、ロックやモード設定等、他の設定をボディパックに転送するよう選択することもできます。

ボディパックからの設定のダウンロード

1. ボディパックの**scan**ボタンを押します。
2. 次にIRウィンドウ同士を近づけ、ボディパックのディスプレイに「**SYNC NOW...**」が点滅している間にラック送信機LCDメニューの**sync**ボタンを押します。

   ラックユニットのレベルLEDが点滅します。

ボディパックへの設定の送信

1. IRウィンドウを合わせます。
2. ラック送信機LCDメニューの**Sync**ボタンを押します。

   ボディパックの青のLEDが点滅します。
3. **Sync**を押して設定を転送します

   IRウィンドウが正しく揃っていると送信機のIRウィンドウが点灯します。

カスタムグループの作成

この機能では、独自の周波数グループを作成することができます。

メニュー：**Radio** > **Custom**

1. コントロールホイールを回し、**Group**メニューからカスタムグループを選択します。（U1、U2、等）
2. コントロールホイールを押して、チャンネルパラメータに合わせ、回してチャンネルを選択します（01、02、03等）。
3. コントロールホイールを押して、周波数パラメータに合わせ、そのチャンネルの周波数を選択します。
4. **Next**メニューキーを押して、そのグループ内の次のチャンネルの周波数選択に進みます。
5. **Load**を選択すると、ネットワーク上の同一モデル・バンドの他のデバイスを検索します。次に**enter**を押すとこれらすべてのデバイスにカスタムグループリストが配置されます。

   これにより既存のカスタムグループがすべて上書きされます。
6. **Clear**を押すと、ネットワーク上のすべてのデバイス用のカスタムグループは消去されます。

MixMode

演奏者によって、自分の声や演奏をよく聞きたい場合もあれば、バンドの方をよく聞きたい場合もあります。MixModeでは、演奏者はボディパックのバランスコントロール（▼▲ボタン）を使用して自身でミックスを作成します。

MixModeを使用するには、演奏者のソロミックスを送信機の**CH. 1 IN**入力に送り、バンドミックスを**CH. 2 IN**入力に送ります。

演奏者のボディパックをMixModeに設定します。ボディパック上のバランスコントロールで相対的にレベルを調整された2つの信号は、ボディパックで合成され、両耳のイヤホンに送られます。

LOOPの使用方法

LOOP OUT L (左) およびR (右) 出力を使用して、送信機に入力されたオーディオ信号と同じものを他の機器へ送ることができます。以下はこの出力の使用例です。

注: 入力レベルコントロールと入力パッドは、**LOOP OUT**信号のレベルには影響しません。

複数システムでMixModeを使用する場合

各システムをMixModeに設定します。ミキシングコンソールから、バンド全体のミックスを、一番目の送信機の入力2につなぎます。**LOOP OUT R**の出力を次の送信機の**CH. 2 IN**入力に接続します。全送信機について同様にチェーン接続にします。

次に各演奏者用のソロミックスを作成します。各ミックスをその演奏者の送信機の入力1に送信します。

フロアモニター

LOOP出力からのオーディオをステージ上のスピーカーに送ります。ボディパックとステージ上のモニターは同じオーディオ信号を受けます。

録音装置

演奏を録音するには、録音装置の入力にLOOP出力を接続します。

スケルチ

スケルチは、RF信号のにノイズが増加したときにボディパックからのオーディオ出力をミュートします。スケルチが作動すると、ボディパックの青のLEDは消えます。

多くの設置状況で、スケルチの調整は必要ありません。これによりRF信号の質が低下した場合にもヒス音や突発的な雑音が演奏者に聞こえることはありません。ただし、RFが混雑した状態またはRF干渉源の近くで使用する場合（大型LEDビデオパネル等）、スケルチを下げて、頻繁な音声のドロップアウトを防がなければならない場合があります。スケルチを低くした設定では、演奏者にノイズやヒス音が聞こえやすくなりますが、オーディオがドロップアウトする頻度は少なくなります。

重要： スケルチを下げる前に、まず、設置状態に合わせて最適な周波数設定を探し、潜在的な干渉源を取り除いて、問題を防ぐようにしてください。

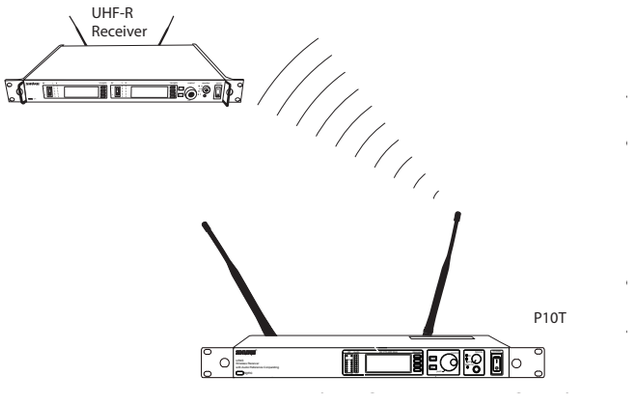
注意：スケルチをオフにしたり、設定を下げたりすると、ノイズレベルが上がり演奏者が不快に感じます。

- 本当に必要なとき以外はスケルチ設定を下げないでください。
- スケルチを調整する前に、イヤホンの音量設定を最小にしてください。
- 演奏中にスケルチの設定を変更しないでください。
- 送信機の**level**設定を上げ、ノイズやヒス音が聞こえにくくなるようにしてください。

スケルチ設定

HIGH (NORMAL)		工場出荷時設定。
MID		受信機のスケルチを作動させるのために必要な程度に若干適度にSN比を下げます。
LOW		ノイズスケルチのスレッショルドを大幅に下げます。
PILOT ONLY*	⊘	ノイズスケルチをオフにしてパイロットスケルチのみをオンにします。
NO SQUELCH*	⊗	ノイズとパイロットトーンスケルチをオフにします。（モニターエンジニアまたはRFコーディネーターがRF環境を「聴く」ためのデバッグツールとして使用することができます。）
* ディスプレイウィンドウに表示されるシンボル		

ポイントツーポイントワイヤレスオ



ーディオ

PTPモードを使用すると、P10TからUHR-R受信機に送信できるようになります。これにより、送信機と受信機はラックマウントされAC電源で動作できるようになります。

詳細は下記までアクセスしてください：www.shure.com/americas/products/personal-monitor-systems

イーサネット接続

それぞれの送信機の背面には、イーサネットネットワークを介して他の送信機と接続するための、RJ-45ポートがあります。送信機をネットワーク接続することにより、グループスキャンのコマンド 1 回だけで全送信機の周波数設定を自動的に行うことができます。

送信機をデフォルトの自動ネットワーク設定を使ってネットワークに追加します（**Util** > **Network** > **Mode** > **Automatic**）：

1. DHCPサービス付きのイーサネットルーターに送信機を接続します。
2. 大規模な設置にはイーサネットスイッチを使用してネットワークを拡張します。
3. 送信機を直列に接続します。

コンピューターによるネットワークアクセス

Shureワイヤレスワークベンチソフトウェアが実行されているコンピューターから、すべてのネットワークユニットをコントロール・監視することができます。デフォルトの自動ネットワーク設定を使用している場合は、コンピューターがDHCPに設定されていることを確認してください。

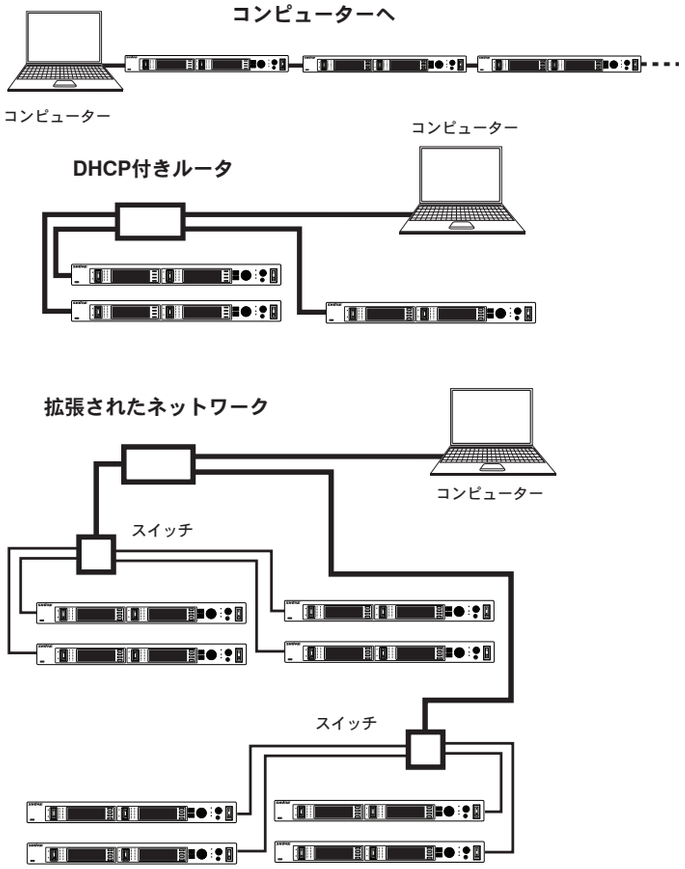
注:コンピューターのセキュリティソフトウェアやファイアウォールの設定によっては送信機との接続を妨げる場合があります。ファイアウォールソフトウェアを使用している場合は、ポート2201の接続を許可してください。

スタティックIPアドレス

静的IPアドレス設定もサポートされています。IPアドレスは、ネットワークメニューから割り当てることができます（**Util** > **Network** > **Mode** > **Manual**）。

注:デュアル送信機では単一のIPアドレスを使用します。これは、いずれかのLCDインターフェースで設定することができます。

送信機の接続



AMXまたはCrestron Systemへの接続

下記のメッセージはイーサネット接続によるAMXまたはCrestronとの通信に使用することができます。

メッセージタイプ

コントロールシステムが次のコマンドメッセージを送信します：

SET	コントロールシステムからShureデバイスに送信し、パラメータの値を変更します。パラメータを特定の値に設定するために使用します。**SET**コマンドが送信されると、Shureデバイスは、現在の変更後の設定をREPORT**REPORT**文字列で返します。
GET	パラメータの現在値を取得します。**GET**コマンドが送信されると、Shureデバイスは、現在の設定を**REPORT**文字列で返します。
REPORT	パラメータの現在値をレポートします。**REPORT**文字列は**SET**または**GET**コマンドに応じてShureデバイスからコントロールシステムに送信されます。**REPORT**文字列はShureデバイス上でパラメータの値が変更されたときにも送信されます。

Syntax

すべてのメッセージはASCII文字で送受信されます。

- 各メッセージは「<」から始まりスペースが続きます。
- 各メッセージは「>」で終了しスペースが前に入ります。
- 各メッセージは復帰改行コード（CRLF）で終わります。コントロールシステムには0x0D0Aと等しい16進数値を入力する必要がある場合があります。復帰改行コード入力に関する詳細についてはコントロールシステムのユーザーガイドを参照してください。
- メッセージがボックスパラメータの場合、文字列にはチャンネル番号を入力しないでください。

メッセージ例

チャンネルパラメータのメッセージ例

- <GET 1 FREQUENCY >/0d/0a
- <REPORT 1 FREQUENCY 578000 >/0d/0a

ボックスパラメータのメッセージ例

- <SET DEVICE_NAME Shure >/0d/0a
- <REPORT DEVICE_NAME Shure >/0d/0a

コマンドレスポンス表

	コマンド	レスポンス
送信機名表示	GET DEVICE_NAME	REPORT DEVICE_NAME vvvvvvvv
チャンネル名設定	SET x CHAN NAME vvvvvvvv	REPORT x CHAN_NAME vvvvvvvv
チャンネル名取得	GET x CHAN NAME	REPORT CHAN_NAME vvvvvvvv
オーディオレベル設定	SET x AUDIO_IN_LVL vvvv	REPORT x AUDIO_IN_LVL vvvv
オーディオレベル表示	GET x AUDIO_IN_LVL	REPORT x AUDIO_IN_LVL vvvv
送信機グループおよびチャンネル設定	SET x GROUP_CHAN gg,cc	REPORT x FREQUENCY vvvvvvvvvv REPORT x GROUP_CHAN gg,ccvvv
送信機グループおよびチャンネル表示	GET x GROUP_CHAN	REPORT x GROUP_CHAN gg,cc
送信機周波数設定	SET x FREQUENCY vvvvvvvvvv	REPORT x FREQUENCY vvvvvvvvvv REPORT x GROUP_CHAN --,--vvv
送信機周波数表示	GET x FREQUENCY	REPORT x FREQUENCY vvvvvvvvvv
RF Txレベル設定	SET x RF_TX_LVL vvvvvv	REPORT x RF_TX_LVL vvvvvv
RF Txレベル表示	GET x RF_TX_LVL	REPORT x RF_TX_LVL vvvvvv
RFミュート設定	SET x RF_MUTE vvvv 1 = ミュート、0 = ミュート解除	REPORT x RF_MUTE vvvv 1 = ミュート、0 = ミュート解除
RFミュート表示	GET x RF_MUTE 1 = ミュート、0 = ミュート解除	REPORT x RF_MUTE vvvv 1 = ミュート、0 = ミュート解除
オーディオTxモード設定	SET x AUDIO_TX_MODE vvvv 1 = モノラル、2 = ポイント・ツー・ポイント、3 = ステレオ	REPORT x AUDIO_TX_MODE vvvv 1 = モノラル、2 = ポイント・ツー・ポイント、3 = ステレオ
オーディオTxモード表示	GET x AUDIO_TX_MODE	REPORT x AUDIO_TX_MODE vvvv 1 = モノラル、2 = ポイント・ツー・ポイント、3 = ステレオ
オーディオ入力ラインレベル設定	SET x AUDIO_IN_LINE_LVL vvvv 0 = オフ (Aux)、1 = オン（ライン）	REPORT x AUDIO_IN_LINE_LVL vvvv 0 = オフ (Aux)、1 = オン (ライン)
オーディオ入力ラインレベル表示	GET x AUDIO_IN_LINE_LVL	REPORT x AUDIO_IN_LINE_LVL vvvv 0 = オフ (Aux)、1 = オン (ライン)
メータリングレート設定	SET x METER_RATE vvvvvvvvvv 0 = off、値はミリ秒単位	REPORT x METER_RATE vvvvvvvvvv 0 = off、値はミリ秒単位
メータリングレート表示	GET x METER_RATE	REPORT x METER_RATE vvvvvvvvvv 0 = オフ、値はミリ秒単位
オーディオメーターレベル	REPORT x AUDIO_IN_LVL_L vvvvvvvvvv	REPORT x AUDIO_IN_LVL_L vvvvvvvvvv REPORT x AUDIO_IN_LVL_R vvvvvvvvvv

スペクトラムスキャン

この機能を使って干渉源となる可能性についてフルRFスペクトラムのスキャンを行い、ネットワーク上のすべての受信機に空き周波数を割り当てます。グラフィック表示されるスキャンデータは送信機と受信機の両方で確認することができます。これによって、グラフをスクロールして周波数と干渉信号強度の詳細を確認することができます。

周波数のスキャンと配置

1. すべてのRFをオフにします。
2. **スキャンデータを集めます。**ボディパック受信機の**MAIN MENU**から、**RADIO** > **FULL SCAN** > **RUN SCAN**を選択します

   受信機に**SPECTRUM SCAN**が表示され、フルスペクトラムのスキャンが行われます。
3. **ボディパック受信機からラック送信機にスキャンデータを転送します。**IRウィンドウを合わせ**Sync** > **Spectrum** > **SyncScan**を押します

   受信機にグラフでスキャンデータが表示され、表示と実装のオプションが表示されます。
4. **ネットワーク上のデバイスの検索。**ラック送信機**Sync** > **Spectrum**メニューから、**Deploy**を押します。

   ラック送信機がネットワーク上のすべての利用可能な送信機を検索します。
5. **グループの選択。**コントロールホイールを使って利用可能なグループから選択します。

   各グループの空き周波数の数は**Open Frequencies**の横に表示されます。
6. **周波数の配置。**点滅している**enter**ボタンを押すと、すべてのチャンネルに周波数が配置されます。

   配置を受けたすべてのチャンネルのLEDが点滅します。

スペクトラムデータの表示

ボディパック受信機から

MAIN MENU > **RADIO** > **FULL SCAN** > **SPECTRUM**

- ▼▲キーを使用してカーソル位置を調整します。
- **enter**を押すとカーソル位置でズームインします。**exit**を押すとズームアウトします。
- **scan**を押すとカーソル位置の周波数と信号強度が表示されます。

ラック送信機から

Sync > **Spectrum**

- **Cursor**を押し、コントロールホイールを使用してカーソル位置を調節します。
- カーソル位置の周波数と信号強度は画面上部に表示されます。
- **Zoom**を押すと、コントロールホイールによりズームイン・アウトができます。

受信機ファームウェアの更新

次のステップによりボディパック受信機のファームウェアを更新します。

1. WBアップデートマネージャを使用して、受信機ファームウェアをラック送信機にダウンロードします。
2. 送信機で**Util** > **More** > **FW Update**メニューを選びます。
3. 受信機と送信機のIRポートを近づけて**Download**を押します。ウンロードが開始されます。終了するのに50秒程度を要します。

ダウンロードが終了すると、受信機は自動的にファームウェアの更新を開始し、既存ファームウェアが上書きされます。

注意！更新が完了するまで受信機の電源をオフに**しないでください**。

仕様

PSM1000

RF送受信帯域	470–952 MHz 地域により異なります
互換周波数 帯域毎	39
チューニング帯域幅	72~80 MHz 注: 地域により異なります
送信到達距離 環境によって異なります	90 m (300 ft)
周波数特性	35 Hz–15 kHz +/- 1dB
S/N比 Aウェイト	90dB (標準)
THD（全高周波歪率) 基準 ±34 kHz偏移@1 kHz	<0.5% (標準)
コンパンディング	特許取得済みオーディオリファレンスコンパンディング方式
スプリアス除去 基準 12dB SINAD	>80dB (標準)
周波数変動	±2.5 ppm
MPXパイロットトーン	19 kHz (±0.3 kHz)
変調	FM*, MPXステレオ *基準 ±34 kHz偏移@1 kHz
使用温度範囲	-18°C ~ +57°C

P10R

三帯域RFフィルタリング	各帯域の中心周波数から－3 dB（30.5 MHz）
アクティブRFゲインコントロール	31dB RF感度を調整し、RFダイナミックレンジを拡大
アクティブRF感度 （20 dB SINAD）	2.2 µV
イメージ抑圧比	>90dB
隣接チャンネル除去	>70dB
スケルチしきい値	22dB SINAD (±3dB) デフォルト設定
相互変調減衰性能	>70dB
ブロッキング性能	>80dB
音声出力電源 1kHz @ <1%歪み、ピーク出力、@32Ω	100 mW（出力毎）
最小負荷インピーダンス	9.5 Ω
ハイブースト	選択可能: +2dB, +4dB @ 10 kHz
音量リミッター	選択可能: 3~9 音量調節ノブ制限。音量ノブ表示に合わせた選択値
質量	196 g(6.6)（電池付き）
寸法	99 x 66 x 23 mm (3.9 インチ x 2.6 インチ x 0.9 インチ) 高さ×幅×奥行き
電池寿命	4~6 時間 (連続使用）単三電池

P10T

RF送信出力	選択可能: 10, 50, 100 mW (+20 dBm)
RF出力インピーダンス	50 Ω (標準)
質量	4.5 kg (10)
寸法	44 x 483 x 343 mm (1.7 x 19.0 x 13.5 インチ), 高さ×幅×奥行き
使用電源	**入力:** 100~240 V AC, 50/60 Hz, 0.5 A最大 (5.5, コンセント電源使用) **出力:** 100~240 V AC, 50/60 Hz, 5 A最大, 未切り換え

音声入力

コネクターの種	XLRと6.35 mm TRSフォーンのコンビネーション
極性	**XLR:** 非反転（ピン3に対してピン2が正） **6.35 mm TRS:** リングに対してチップが正
構成	電子バランス
インピーダンス	70.2 kΩ（実効値）
公称入力レベル	切り替え可能: +4 dBu, –10 dBV
最大入力レベル	**+4 dBu:** +29.2 dBu **-10 dBV:** +12.2 dBu
ピンの割当	**XLR:** 1=接地、2=ホット、3=コールド **6.35 mm TRS:** チップ=ホット、リング=コールド、スリーブ=接地
ファンタム電源保護	最大 60 V DC

音声出力

コネクターの種	6.35 mm TRS
構成	電子バランス
インピーダンス	入力に直接接続

アクセサリーおよびパーツ

付属アクセサリー

P10Rアンテナ	
470–542 MHz	UA700
540–626 MHz	UA710
596–692 MHz	UA720
670–830 MHz	UA730
830–952 MHz	UA740
P10Tアンテナ	
470–530 MHz	UA820G
500–560 MHz	UA820G7
518–578 MHz	UA820H4
578–638 MHz	UA820J
638–698 MHz	UA820L3
690–746MHz	UA820B
774–865 MHz	UA820A
900–1000 MHz	UA820X
フロントマウントアンテナケーブル	95A9023
ジッパー付きバッグ	95A2313
ラックマウントブラケット、ロング	53A8612
ラックマウントブラケット、ショート	53A8611
連結バー	53B8443
ハードウェアキット（ラックマウントネジ）	90XN1371
バンパーキット	90B8977

オプション・アクセサリー（別売）

8 to 1アンテナコンバイナーでより良いRF性能	PA821SWB
4送信機への電源供給が可能な4-to-1アンテナコンバイナー（RF性能が向上し、外部電源が不要）	PA421SWB
パッシブ指向性アンテナ	PA805SWB
ヘリカルアンテナ	HA-8090
パッシブ無指向性アンテナ	UA860SWB
同軸ケーブル、BNC-BNC、RG58C/Uタイプ、50オーム、長さ0.6 m	UA802
同軸ケーブル、BNC-BNC、RG58C/Uタイプ、50オーム、長さ2 m	UA806
同軸ケーブル、BNC-BNC、RG8X/Uタイプ、50オーム、長さ7.5 m	UA825
同軸ケーブル、BNC-BNC、RG8X/Uタイプ、50オーム、長さ15 m	UA850
同軸ケーブル、BNC-BNC、RG213/Uタイプ、50オーム、長さ30 m	UA8100

帯 域	範 囲 (MHz)	RF 送信機の出力 (mW)
G10	470-542	10/50/100
G10E	470-542	10/50
G11	479-542	6/10
H8Z	518-582	10/50
J8	554-626	10/50/100
J8E	554-626	10/50
K10E	596-668	10/50
L8	626-698	10/50/100
L8E	626-698	10/50
L9E	670-742	10/50
L10	670-742	10/20
P8	710-790	10/50
Q21	710-787	10/50
Q22E	750-822	10/50
Q23	750-822	10/20
R26	794-806	6/10
R27	794-806	10/50
A24	779-788 797-806	6/10
X1	944-952	10/50/100
X2	925-932	10/50
X7	925 - 937.5 MHz	10

注：本無線機器は、業務用の音楽エンターテイメントおよび同様の用途に使用するためのものです。本無線機器はご使用の地域で認可されていない周波数で操作できる場合があります。国内当局にお問い合わせになり、ワイヤレスマイクロホン製品の認可周波数と RF 出力レベルの情報をご確認ください。

認証

P10T, P9R

次の基準の要件を満たします。 EN 300 422第1部、第2部, EN 301,489第1部、第9部, EN60065.

次の欧州指令の必須要件を満たします：

- R&TTE指令99/5/EC
- WEEE指令2002/96/EC（2008/34/EC改正）
  電子廃棄物については地域のリサイクル方法に従ってください
- RoHS指令2002/95/EC（2008/35/EC改正）

P10R

FCC規則第15章の適合宣言（DoC）規定により認可。

カナダ国内にてICによりRSS-123認定。

P10T

FCCパート74認証。

カナダにおいて RSS-123 および RSS-102 により IC 認可。

CE適合宣言書はShure社またはShure社の欧州担当部より入手することができます。問い合わせ先についてはvisit www.shure.comを参照してください

CE適合宣言書は以下より入手可能です:www.shure.com/europe/compliance

ヨーロッパ認可代理店:
Shure Europe GmbH
ヨーロッパ、中東、アフリカ地区本部：
部門:EMEA承認
Jakob-Dieffenbacher-Str. 12
75031 Eppingen, Germany
Tel: 49-7262-92 49 0
Fax: 49-7262-92 49 11 4
Eメール： EMEAsupport@shure.de

SHURE®

www.shure.com

United States, Canada, Latin America, Caribbean:
Shure Incorporated
5800 West Touhy Avenue
Niles, IL 60714-4608 USA

Phone: 847-600-2000
Fax: 847-600-1212 (USA)
Fax: 847-600-6446
Email: info@shure.com

Europe, Middle East, Africa:

Shure Europe GmbH
Jakob-Dieffenbacher-Str. 12,
75031 Eppingen, Germany

Phone: 49-7262-92490
Fax: 49-7262-9249114
Email: info@shure.de

Asia, Pacific:
Shure Asia Limited
22/F, 625 King's Road
North Point, Island East
Hong Kong

Phone: 852-2893-4290
Fax: 852-2893-4055
Email: info@shure.com.hk

PT. GOSHEN SWARA INDONESIA

Kompleks Harco Mangga Dua Blok L No. 35 Jakarta Pusat